

平成 20 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、平成 22 年(2010 年)に学園創立 90 周年を迎えます。大正 9 年(1920 年)に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する品格ある女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校を有する本学園は、創立以来 88 年の伝統を礎にし、女子教育機関としての使命を果たし、現在の同窓生数は 43,000 名を超え、社会の各方面で活躍中です。

甲南女子大学では、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる次代を担う女性の輩出を目指しています。

甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、財団法人甲南病院及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立の精神のもと、それぞれの特色、英知を更に結集、強化し、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在) (単位:名)

区 分	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
○学生在籍者数				
大 学 院	79	66	58	57
文 学 部	1,770	1,611	1,452	1,449
人間科学部	1,471	1,433	1,515	1,583
看護リハビリテーション学部	-	-	142	285
計	3,320	3,110	3,167	3,374
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	455	469	467	463
中 学 校	498	504	508	512
計	953	973	975	975
○教職員数				
専任教職員	205	213	243	277
非常勤教職員	313	294	302	265
計	518	507	545	542

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成20年5月1日現在）

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
甲南女子大学 文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	98	390	368
英 語 英 米 文 学 科	120	140	520	495
フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 文 学 科	—	—	50	46
多文化コミュニケーション学科	70	92	320	313
メ デ ィ ア 表 現 学 科	60	73	180	227
文学部 計	330	403	1,460	1,449
甲南女子大学 人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	105	360	397
人 間 教 育 学 科	—	—	80	75
総 合 子 ど も 学 科	120	127	360	380
文 化 社 会 学 科	80	103	320	382
生 活 環 境 学 科	80	100	320	349
人間科学部 計	370	435	1,440	1,583
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部				
看 護 学 科	85	73	165	160
理 学 療 法 学 科	60	69	120	125
看護リハビリテーション学部 計	145	142	285	285
3 学 部 合 計	845	980	3,185	3,317
甲南女子大学 大学院人文科学総合研究科 博士前期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	3	18	9
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	10	26	26
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	2	18	6
社 会 学 専 攻	—	—	—	1
心 理 学 専 攻	—	—	—	0
博士前期課程 計	31	15	62	42
甲南女子大学 大学院人文科学総合研究科 博士後期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	1	9	2
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	3	9	10
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	1	9	2
日 本 文 学 専 攻	—	—	—	1
教 育 学 専 攻	—	—	—	0
博士後期課程 計	9	5	27	15
大学院 合計	40	20	89	57
甲南女子中学校・高等学校				
甲 南 女 子 中 学 校	170	170	510	512
甲 南 女 子 高 等 学 校	170	153	510	463
甲南女子中学校・高等学校 計	340	323	1,020	975

Ⅱ. 事業の概要

1. 事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化、経済危機の影響等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で、本学園は、88年にわたる甲南女子教育の伝統と実績を踏まえ、中学校・高等学校・大学一貫の女子教育のあり方を追究すると共に、中長期の視点から経営基盤のさらなる安定・強化に取り組んでいます。同時に、平成21年度から23年度に亘る「学園中期計画」を策定し、この計画を踏まえて学園全体のPDCA(Plan Do Check Action)サイクルを推進していくことにしました。

甲南女子大学では、「甲南女子大学の教育理念」を制定し、本学の歴史・伝統を支えてきた建学の精神・教育方針・校訓を尊重しつつ、これからの大学教育において目指すべき方向性(大学の使命・学生のめざす姿)を明確化しました。また、社会の変化に対応すべく改革に着手し、平成19年度には看護リハビリテーション学部(看護学科・理学療法学科)を開設するとともに、総合子ども学科の一層の充実のため20年度に「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、21年4月「甲南保育園」(神戸市東灘区森南町)開設に向けて準備を完了しました。大学の組織面では、21年度から図書館とケアセンターの組織的統合を図り、新しく対外協力センター(社会貢献室・国際交流室)を設置することにしました。

甲南女子中学校・高等学校においては、大学と同様に「甲南女子中学校・高等学校の教育理念」を制定し、建学の理念の尊重及び学校の使命、生徒がめざす姿を明確化しました。そして、平成20年度から中学校にスペシャル・アドバンスト・コース(Sアドコース)を開設しました。さらに、中学校・高等学校の新しい教育環境の整備を視野に入れた校舎改築の検討を開始しました。

管理面では、組織の活性化と人材育成をめざした職員の新人事制度の構築に向け取り組んでいます。運営面においては学園公益通報者保護規程の整備を行い、公益通報者保護法に対応した相談窓口を事務局(総務課)に設置しました。また、教育環境の整備及び教育研究の推進に対する支援を目的とする「甲南女子学園教育振興基金」制度を設け、本学園の卒業生・教職員・保証人・役員等へ募金への支援・協力の依頼を継続しています。

2. 大 学

(1)教育体制 21世紀に求められる新学部・学科を企画し、平生鈞三郎先生が創設された甲南病院との連携をもとに、平成19年度に「看護リハビリテーション学部(看護学科、理学療法学科)」を開設しました。また、人間科学部総合子ども学科では、保育士、幼稚園教諭1種免許に加え、平成19年3月末に小学校1種免許課程の認定を文部科学省から得ました。更に、平成20年度から次のとおり学科名称を変更しました。文学部(日本語日本文学科→日本語日本文化学科、多文化共生学科→多文化コミュニケーション学科)、人間科学部(行動社会学科→文化社会学科、人間環境学科→生活環境学科)。

(財)日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、大学評価基準

をすべて満たしているとの認定を受けました。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 20 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻 社会学専攻(募集停止)
	文科学総合研究科 (博士後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻 日本文学専攻(募集停止)
学 部	文 学 部 日本語日本文学科(2・3・4年生) 日本語日本文化学科(1年生) 英語英米文学科 フランス語フランス文学科(募集停止) 多文化共生学科(2・3・4年生) 多文化コミュニケーション学科 (1年生) メディア表現学科
	人間科学部 心理学科 人間教育学科(募集停止) 総合子ども学科 行動社会学科(2・3・4年生) 文化社会学科(1年生) 人間環境学科(2・3・4年生) 生活環境学科(1年生)
	看護リハビリテーション学部 看護学科 理学療法学科

(2)カリキュラム 平成 18 年度からカリキュラムの改定を行い、学生の履修及び資格取得の多様化を図っています。特に基礎科目で導入教育を重視し、新入生が大学や大学生活を多様な面から体験し、大学をよりよく知る「大学探検」を開設しました。この科目の中でマナー講座を必修化すると共に、人間関係や身近な現象を通して、自己と他者について考える「自分の探求」、将来の進路選択をサポートする「キャリアデザイン」、就職に役立つ日本語のスキルアップを目指す「キャリアのための日本語」を開設しました。また、ANA 総合研究所の協力を得て、「エアライン実習」、「ホスピタリティ入門」等を 21 年度から開講します。

①外国語教育「英語」はすべての学生があらゆるコミュニケーションに対応

できるよう、総合的にスキルアップできるカリキュラム編成をしました。更に英語検定試験、海外留学、海外旅行、映画、インターネット、通訳・翻訳などの目的別科目を配置しています。「初習外国語」は、中国語、韓国語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、インドネシア語を設置し、各言語が用いられてきた地域の生活や歴史を手がかりに、わが国や英語圏とは異なる文化について学んでいます。

- ②国際交流 語学力と国際感覚を身につけるため、各種留学、語学研修プログラム等を実施しました。
- 交換留学 パリ第7大学(仏) 天津外国語学院 国際交流学院(中) 淑明女子大学(韓)
- 認定留学 西イリノイ大学 WESL(米) リジャイナ大学 ESL(加) ナント大学 IRFFLE(仏) 天津外国語学院 国際交流学院(中) 淑明女子大学 国際言語学院(韓) クライストチャーチ教育大学 CCEL (ニュージーランド)
- 語学研修 ヨーク大学 CELT (英) シドニー大学 The Women's College (豪) リジャイナ大学 ESL(加) 天津外国語学院(中) 淑明女子大学 国際言語学院(韓) ガジャマダ大学(インドネシア)
- 海外研修 海外日本語教育実習(韓) 看護リハビリテーション学部オーストラリア研修(豪) 保育教育実地研修(ニュージーランド)
- ③単位互換 甲南大学と単位互換に関する協定を締結し、21年度から単位互換を開始します。
- ④情報教育 情報リテラシーの能力を備えた学生の育成に努めると共に、学習環境充実のため、コンピュータ教室の新設、ネットワーク環境の整備も同時に進めました。
- (3)学生生活 品格ある女子大学をめざし、マナー教育(社会化教育プログラム)を「社会貢献活動」と関連づけ、様々な活動を展開しました。岡本地区一斉クリーン作戦への参加、学生プロジェクト基金21、障害学生支援活動などを通じて、責任感・公共道徳・自主性などを育てています。また、優秀学生の表彰も行っています(大学一優秀学生賞、同窓会一清友会賞、教育後援会一学習奨励賞)。9月に学生の修学目標の達成と人間的成長を支援するアドバイザー制度を制定し、10月には「教育フェア2008」を開催、大学と家庭を結ぶための教育懇談会と就職説明会を同時開催しました。学生生活充実のため、学生会館(食堂)を改装しました。また、芦屋市にある松影寮を閉寮し、神戸市東灘区内に「Konan Clover House」(学生寮)を確保しました。
- (4)課外活動 ゴルフ部 関西学生女子春季1部校対抗戦 1部昇格
弓道部 兵庫県民大会 個人女子 大学の部 優勝
チアリーディング部 第15回西日本チアリーディング選手権大会
3位

馬術 第35回近畿馬術大会 入賞

- (5)就職活動 就職や社会に対する意識を高め、進路の多様化にも応えるために、授業として「キャリア形成支援プログラム」を提案し、1年次から体系立てたキャリア教育の実施に取り組んでいます。また、就職活動を実践面からバックアップするために、ガイダンスや就職対策講座の強化と就職課での個人面談に一層力を入れました。資格サポートセンターでは、様々な資格取得により、将来の職業に活かせるよう支援しました。
- (6)大学開放 4月に第43回シェイクスピア祭を芦屋市民会館にて開催。また年数回、子ども学講演会を開催しました。秋には県下大学連携ひょうご講座に参加すると共に、本学主催の公開講座を開催しました。さらに10月第4土曜日には同窓生を招いて、第27回ホームカミングデーを開催しました。(大学祭と同時開催)
- (7)学生募集 広報では、ホームページの充実と共に、進学情報誌、新聞など広告媒体を厳選し、内容の充実を図り、入学者選抜試験についても、より一層正確・確実な組織体制を整備しました。学生募集面では、オープンキャンパス、進学説明会を開催、高校訪問活動を推進すると共に、志願者、受験者、入学者の質的・量的確保に積極的に取り組みました。
- (8)表彰 学生による「後輩に勧めたい授業科目・教員について」の投票の結果に基づいて選出された大学教員(2名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。
- (9)地域貢献 18年度に本学と神戸市東灘区との間で「地域連携協力に関する協定」を締結し、継続して、まちづくりの推進、教育・文化・健康・スポーツの振興及び発展、地域福祉の向上、人材の育成、地域の安定・安心の推進などについて、地域の連携活動に貢献しています。さらに、大学に隣接する社会福祉法人と連携活動に関する協定を締結し、相互の協力活動を開始しました。
- (10)源氏物語 本学が所蔵する源氏物語「梅枝の巻」が、鎌倉中期の写本であることがわかりました。この写本は、昭和48年に京都の古書店から購入したものです。2ページ目に幕末期に活躍した軍艦奉行・勝海舟が、明治維新後に名乗っていた「勝安芳」との所蔵印があります。同じく本学が所蔵する「紅葉賀の巻」も鎌倉後期のものと判明しました。

3. 中学校・高等学校

- (1)教育活動 中学1年は、4月入学式前に友達作りと中学生としての自覚を促すことを目的としたスプリングセミナーを実施、2年は平和学習(総合の時間及び9月下旬に広島平和研修旅行を実施)、3年は多くの保育所の協力の下、1学期末考査後に保育体験学習を実施しました。
- 高校1年は、3月末に実施したスプリングセミナー(勉強合宿)で、自ら学ぶ姿勢を身につけ、11月に「探求(総合の時間)」と

連動した「水俣研修旅行」を実施しました。2年(希望者)は8月に行ったサマーセミナー(勉強合宿)で学習深度を深めました。また、11月に「探求(総合の時間)」と連動した研修中心の「沖縄修学旅行」を実施しました。

2月7日(土)に、1年間の総合学習(探求・平和)・環境学習の成果を発表する「学習成果発表会」を、甲南大学、甲南中学校・同高校、甲南小学校の参加を得て、実施しました。

(2)生徒指導 品位ある人格養成のため、「あいさつ」の励行運動(和光会と協同実施)や身だしなみ・礼儀等、教員全員で指導した結果、来校者の評価も上昇しており、学外で生徒にお世話になったとの感謝の声も届いています。登下校時の態度については、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR甲南山手駅)での指導を含め、引き続き指導を続けています。

(3)環境学習 6月・10月に広野で農作業体験を、9月に住吉川環境学習を甲南大学、甲南中学校・高等学校、甲南小学校と合同で実施しました。1月には、甲南小学校で行われた「収穫祭」にも参加しました(いずれも希望者)。

(4)行事 春の文化祭、秋の体育大会共、生徒による自主的な運営により行われており、文化祭は来校者数が4109名と盛況となりました。

(5)土曜活用 高校2年・3年の希望者を対象に、通年で国語・数学・社会・理科・英語の補習授業を実施しました。

(6)国際交流 長期の留学ではディートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム(独、派遣1名、受入2名)、イリノイ大学付属高校(米、派遣1名)との交換留学を実施しました。また、新たにオーストラリア・セントマーガレット・アングリカン・ガールズハイスクールと2ヶ月間の交換留学が始まり、2名ずつの生徒の派遣・受け入れをしました。

(7)課外活動 写真部 第16回兵庫県高等学校写真連盟春季写真コンテスト
入選

第32回全国高等学校総合文化祭 写真部門展
文化連盟賞

第32回兵庫県高等学校総合文化祭写真コンテスト
神戸支部賞

放送部 第55回NHK全国高校放送コンテスト
兵庫県大会
アナウンス部門 奨励賞
朗読部門 優秀賞(8位)
奨励賞

NHK杯全国高校放送コンテスト
朗読部門 入選

兵庫県高等学校総合文化祭 放送文化部門
アナウンス部門 奨励賞
朗読部門 奨励賞

近畿高等学校総合文化祭放送文化部門

アナウンス部門 奨励賞

コーラス部 NHK全国学校音楽コンクール兵庫県大会
 中学校 銀賞
 高校 銅賞
 関西合唱コンクール 中学校 金賞
 高校 銀賞
 兵庫県合唱コンクール 中学校・高校共に金賞
 こども音楽コンクール 奈良大会
 中学校 優秀賞(西日本大会出場)

演劇部 第39回神戸市高等学校演劇発表会
 最優秀賞(県大会出場)
 第52回兵庫県高等学校
 演劇研究会中央合同発表会
 優良賞

アーチェリー部 第52回兵庫県高等学校総合体育大会
 アーチェリー競技
 団体優勝(全国大会出場)
 個人優勝(高校新)
 2位・3位・6位
 近畿高等学校アーチェリー選手権大会
 団体優勝、個人2位
 全国高等学校総合体育大会
 アーチェリー競技大会
 団体優勝、個人3位
 第63回国民体育大会 アーチェリー競技
 団体優勝(高校新)
 個人3位・4位
 全日本アーチェリー選手権 準優勝
 兵庫県「マロニエ賞」受賞 (高校3年4名)

弓道部 第52回兵庫県高等学校弓道大会
 女子団体 優勝
 兵庫県秋季高校弓道大会 女子団体 優勝
 女子個人 優勝・3位
 第61回近畿高等学校弓道大会
 女子団体 優勝
 女子個人 8位
 第27回全国高等学校選抜弓道大会(県予選)
 女子個人 2位
 (全国選抜大会出場)

中学硬式テニス部 第5回兵庫県中学校秋季テニス大会
 学校対抗 3位

水泳部 兵庫県総合体育大会 女子水球競技 優勝
 近畿高等学校水球選手権大会 女子水球競技
 3位

馬術	兵庫県高校ジュニア選手権 女子水球競技 優勝 第7回 水口 Horse Show 第17 競技 小障害 B 4 位 奈良県馬術大会 小障害 飛越競技 C 3 位 第二課目 馬場馬術競技 6 位
美術	G8 環境大臣会合記念 環境ポスター展 優秀賞・入賞
音楽	第11回環境教育ポスターコンクール 入賞
書道	第18回兵庫県学生ピアノコンクール 銀賞 第41回兵庫県私学総連合会 書道展 特選（書遊賞） 第55回日本学書展 特選・準特選

(8)安全教育 子どもが暴力から自分を守るための教育プログラム：CAP (Child Assault Prevention) の研修会を、生徒・保護者（中学2年）及び全教員を対象として10月に実施しました。下校時刻(15時45分から17時45分)に、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。

(9)生徒募集 平成20年度よりスタートしたSアドコースとスタンダードコースの新体制の広報を中心に、10月に1回・11月に2回の計3回の学校説明会を実施しました。参加総数は1295名に及び、校外での説明会も盛況でした。平成21年度中学入試では、Sアドコースの人气が高く入試結果からSアドコースが2クラス、スタンダードコースが3クラスの計5クラス編成となりました。

Ⅲ. 財務の概要

(1)平成 20 年度決算の状況

【資金収支計算書】

学校法人が1年間を通して教育研究活動等の諸活動を行うことにより、生ずるすべての収入及び支出の内容を表示したものです。

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度決算額	H19 年度決算額	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	4,691,593	4,351,933	339,660	107.8%
手数料収入	95,660	98,630	△ 2,970	97.0%
寄付金収入	33,150	43,268	△ 10,118	76.6%
補助金収入	566,748	545,537	21,211	103.9%
資産運用収入	392,152	390,391	1,761	100.5%
資産売却収入	1,001,987	2,027,347	△ 1,025,360	49.4%
事業収入	34,528	36,441	△ 1,913	94.8%
雑収入	149,211	216,598	△ 67,387	68.9%
前受金収入	1,082,545	1,005,165	77,380	107.7%
その他の収入	479,463	1,401,857	△ 922,394	34.2%
資金収入調整勘定	△ 1,153,980	△ 1,172,418	18,438	98.4%
計	7,373,057	8,944,749	△1,571,692	82.4%
前年度繰越支払資金	2,956,364	2,654,107	302,257	111.4%
収入合計	10,329,421	11,598,856	△1,269,435	89.1%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 15 億 71 百万円減の 73 億 73 百万円となりました。主な減少は、資産売却収入(有価証券の満期償還 10 億 25 百万円減)、その他の収入(積立金の満期償還 10 億円減)によるものです。一方、主な増加は学生生徒等納付金収入(3 億 39 百万円)の増加によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度決算額	H19 年度決算額	増減	増減率
人件費支出	3,356,706	3,432,168	△ 75,462	97.8%
教育研究経費支出	1,036,794	1,017,645	19,149	101.9%
管理経費支出	691,907	436,774	255,133	158.4%
施設関係支出	192,986	136,454	56,532	141.4%
設備関係支出	157,788	147,756	10,032	106.8%
資産運用支出	1,699,047	3,278,900	△ 1,579,853	51.8%
その他の支出	319,159	345,951	△ 26,792	92.3%
資金支出調整勘定	△ 269,330	△ 153,156	△ 116,174	175.9%
計	7,185,057	8,642,492	△ 1,457,435	83.1%
次年度繰越支払資金	3,144,364	2,956,364	188,000	106.4%
支出合計	10,329,421	11,598,856	△ 1,269,435	89.1%

『支出の状況』

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 14 億 57 百万円減の 71 億 85 百万円となりました。主な減少は、資産運用支出(有価証券の満期償還に伴う再運用 15 億 79 百万円減)によるものです。一方、主な増加は管理経費支出(保育園設置寄付金 2 億 60 百万円)の増加によるものです。この結果、次年度に繰越される支払資金は、前年比 1 億 88 百万円増の 31 億 44 百万円となりました。

【消費収支計算書】

学校法人の経営状況を明らかにするため、消費収入・消費支出の内容及び均衡の状況を表示しています。

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度決算額	H19 年度決算額	増減	増減率
学生生徒等納付金	4,691,593	4,351,933	339,660	107.8%
手数料	95,660	98,630	△ 2,970	97.0%
寄付金	37,984	46,972	△ 8,988	80.9%
補助金	566,748	545,537	21,211	103.9%
資産運用収入	392,152	390,391	1,761	100.5%
資産売却差額	1,278	1,018	260	125.5%
事業収入	34,528	36,441	△ 1,913	94.8%
雑収入	149,211	216,598	△ 67,387	68.9%
帰属収入合計	5,969,154	5,687,520	281,634	105.0%
基本金組入額合計	△ 328,700	△ 200,000	△ 128,700	164.4%
消費収入の部合計	5,640,454	5,487,520	152,934	102.8%

『消費収入の状況』

①学生生徒等納付金

学部生の増加(208名)により、前年比 3 億 39 百万円増の 46 億 91 百万円となりました。期中の学生生徒数は、4349 名(平成 20 年 5 月 1 日現在)です。

②手数料

前年比 2 百万円減の 95 百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料です。

③寄付金

前年比 8 百万円減の 37 百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として 28 百万円、甲南女子学園教育振興基金への教育環境整備資金及び教育研究推進資金として 4 百万円の寄付を受け入れました。

④補助金

前年比 21 百万円増の 5 億 66 百万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金 2 億 83 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 2 億 73 百万円です。

⑤資産運用収入

積立資産、運転資金等の受取利息 3 億 87 百万円及び施設設備利用料 4 百万円の合計で 3 億 92 百万円となりました。

⑥資産売却差額

スクールバスの売却益です。

⑦事業収入

主なものは、大学の学生寮収入 30 百万円です。

⑧雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 1 億 39 百万円及びその他の雑収入 10 百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比 2 億 81 百万円増(5.0%)の 59 億 69 百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度決算額	H19 年度決算額	増減	増減率
人件費	3,298,264	3,367,466	△ 69,202	97.9%
教育研究経費	1,751,537	1,781,395	△ 29,858	98.3%
管理経費	757,205	498,053	259,152	152.0%
資産処分差額	18,787	216,950	△ 198,163	8.7%
徴収不能引当金繰入額等	6,669	6,800	△ 131	98.1%
消費支出合計	5,832,462	5,870,664	△ 38,202	99.3%

『消費支出の状況』

⑨人件費

退職給与引当金繰入額の減少により前年比 69 百万円減 (2.1%) の 32 億 98 百万円となりました。期中の本務教職員数は 277 名、兼務教職員数は 265 名で、帰属収入に占める人件費割合は 55.3%となり、前年同比率 59.2%から 3.9%減少しました。

⑩教育研究経費

減価償却費を除く経費は、1.9%増の 10 億 36 百万円となりましたが、減価償却費は前年比 49 百万円減少(6.4%)し、7 億 14 百万円となったことにより、差引き 29 百万円(1.7%)の減少となりました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 29.3%です。

⑪管理経費

前年比 2 億 59 百万円増(52.0%)の 7 億 57 百万円となりました。増加要因は本学が設置する人間科学部総合子ども学科の教育・研究の充実を図るため、本学園が社会福祉法人を設立し、甲南保育園を設置するにあたり、社会福祉法人の設置財源を確保するため 2 億 60 百万円の寄付金を支出したことによるものです。

⑫資産処分差額

当年度は前年度の校外学舎売却(六甲山学舎 1 億 43 百万円)、機器備品の処分 71 百万円の多額の処分損がなくなり 18 百万円となりました。

⑬徴収不能引当金繰入額、徴収不能額

貸与奨学金及び学費の徴収不能引当金で 6 百万円となりました。

その結果、消費支出合計は前年比 38 百万円減(0.7%)の 58 億 32 百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度決算	H19 年度決算	増減	増減率
当年度消費支出 超過額	△192,008	△383,144	△191,136	50.1%
前年度繰越 消費収入超過額	2,438,639	2,321,502	117,137	105.0%
基本金取崩額	0	500,281	△500,281	—
翌年度繰越 消費収入超過額	2,246,631	2,438,639	△192,008	92.1%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

当期の基本金組入は、第1号基本金へ1億28百万円、第2号基本金へ中高校の校舎改築資金として2億円を組み入れました。その結果、帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した消費収入合計は56億40百万円となり、消費収入合計から消費支出合計を差し引いた額1億92百万円の消費支出超過となりました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H20 年度決算	H19 年度決算	増減
帰属収入－消費支出	136,692	△183,144	319,836

帰属収支差額は収支状況を見る最も基本的な指標であり、平成20年度は前年度より3億19百万円改善し1億36百万円のプラスとなりました。

【貸借対照表】

年度末における学校法人の財政状態を表示したもので、資産・負債・基本金・消費収支差額の項目について金額で明らかにしています。

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H20 年度末	H19 年度末	増減	増減率
固定資産	39,072,395	38,898,221	174,174	100.4%
有形固定資産	21,430,926	21,875,529	△444,603	98.0%
土地・建物・構築物	17,619,695	17,941,356	△321,661	98.2%
機器備品・図書・車輛	3,811,231	3,934,173	△122,942	96.9%
その他の固定資産	17,641,469	17,022,692	618,777	103.6%
特定資産・有価証券	17,537,255	16,937,657	599,598	103.5%
その他	104,214	85,035	19,179	122.6%
流動資産	3,326,180	3,214,197	111,983	103.5%
現金預金	3,144,364	2,956,364	188,000	106.4%
その他	181,816	257,833	△76,017	70.5%
資産合計	42,398,575	42,112,418	286,157	100.7%

『資産の状況』

資産総額は前年度より2億86百万円(0.7%)増加し、423億98百万円となりました。

固定資産は、1億74百万円(0.4%)増加し390億72百万円となりました。これは主に有形固定資産の建物、機器備品等が4億44百万円減少したものの、その他の固定資産の有価証券が5億99百万円増加したことによるものです。

流動資産は、1億11百万円(3.5%)増加し33億26百万円となりました。これは主に現金預金が1億88百万円(6.4%)増加したことによるものです。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	増減	増減率
固定負債	1,454,715	1,513,157	△58,442	96.1%
退職給与引当金	1,454,715	1,513,157	△58,442	96.1%
流動負債	1,475,438	1,267,531	207,907	116.4%
前受金	1,082,545	1,005,165	77,380	107.7%
その他	392,893	262,366	130,527	149.7%
負債合計	2,930,153	2,780,688	149,465	105.4%

『負債の状況』

負債総額は前年度より1億49百万円(5.4%)増加し、29億30百万円となりました。これは主に施設設備関係工事の一部が期末になったことにより、流動負債の未払金が1億16百万円増加したことによるものです。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	増減	増減率
第1号基本金	33,111,791	32,983,091	128,700	100.4%
第2号基本金	2,400,000	2,200,000	200,000	109.1%
第3号基本金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第4号基本金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	37,221,791	36,893,091	328,700	100.9%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支差額	2,246,631	2,438,639	△192,008	92.1%

【負債、基本金、消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	増減	増減率
負債、基本金、消費収支差額計	42,398,575	42,112,418	286,157	100.7%

(正味財産)

(単位:千円)

基本金+消費収支差額	H20 年度末	H19 年度末	増減	増減率
	39,468,422	39,331,730	136,692	100.3%

『正味財産の状況』

当期の基本金組入額が 3 億 28 百万円となったことから、基本金総額は 372 億 21 百万円となりました。結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は、前年度より 1 億 36 百万円(0.3%)増加し、394 億 68 百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位:千円)

(消費収入の部)科目	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
学生生徒等納付金	4,664,386	4,350,490	4,104,118	4,351,933	4,691,593
手数料	64,731	67,156	90,702	98,630	95,660
寄付金	58,115	56,508	44,958	46,972	37,984
補助金	516,193	493,712	515,919	545,537	566,748
資産運用収入	408,223	446,362	476,335	390,391	392,152
資産売却差額	534	0	1,086	1,018	1,278
事業収入	53,326	55,392	32,920	36,441	34,528
雑収入	153,654	111,925	188,238	216,598	149,211
帰属収入合計	5,919,162	5,581,545	5,454,276	5,687,520	5,969,154
基本金組入額合計	△ 561,657	△ 401,038	△1,823,378	△ 200,000	△ 328,700
消費収入の部合計	5,357,505	5,180,507	3,630,898	5,487,520	5,640,454

(消費支出の部)科目	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
人件費	3,045,998	2,871,077	2,991,408	3,367,466	3,298,264
教育研究経費	1,475,852	1,591,921	1,578,878	1,781,395	1,751,537
管理経費	488,098	512,843	502,416	498,053	757,205
資産処分差額	24,142	272,990	108,454	216,950	18,787
徴収不能引当金繰入額	4,489	7,886	5,951	6,800	6,669
消費支出の部合計	5,038,579	5,256,717	5,187,107	5,870,664	5,832,462
当年度消費収支差額	318,926	△ 76,210	△1,556,209	△ 383,144	△ 192,008
前年度繰越消費収支差額	3,634,995	3,953,921	3,877,711	2,321,502	2,438,639
基本金取崩額	0	0	0	500,281	0
翌年度繰越消費収支差額	3,953,921	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631

貸借対照表の推移(5ヵ年)

科目	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
固定資産	37,141,309	37,110,597	39,503,240	38,898,221	39,072,395
流動資産	4,362,277	4,684,053	2,848,419	3,214,197	3,326,180
資産の部合計	41,503,586	41,794,650	42,351,659	42,112,418	42,398,575
固定負債	1,636,308	1,613,771	1,577,859	1,513,157	1,454,715
流動負債	944,400	933,174	1,258,925	1,267,531	1,475,438
負債の部合計	2,580,708	2,546,945	2,836,784	2,780,688	2,930,153
基本金の部合計	34,968,957	35,369,994	37,193,373	36,893,091	37,221,791
翌年度繰越消費収支差額	3,953,921	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	41,503,586	41,794,650	42,351,659	42,112,418	42,398,575

主な財務比率(5ヵ年)

比率		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	78.8%	77.9%	75.2%	76.5%	78.6%	$\frac{\text{学生生徒等納付}}{\text{帰属収入}}$
	人件費比率	51.5%	51.4%	54.8%	59.2%	55.3%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	24.9%	28.5%	28.9%	31.3%	29.3%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	14.9%	5.8%	4.9%	-3.2%	2.3%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$
貸借対照表	固定資産比率	89.5%	88.8%	93.3%	92.4%	92.2%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	3.9%	3.9%	3.7%	3.6%	3.4%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$
	流動比率	461.9%	501.9%	226.3%	253.6%	225.4%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	自己資金比率	93.8%	93.9%	93.3%	93.4%	93.1%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額
 総資金=負債+基本金+消費収支差額

役員及び評議員の概要

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

役員	
理事長	松下 正幸
理事	上島 康男
理事	松田 基
理事	坪内 良博
理事	清水 洵
理事	北市 哲朗
理事	松林 靖明
理事	香川 豊
理事	津村 智恵子
理事	上田 昇司
理事	塩原 勉
理事	吉松 典子
理事	百崎 祥子
理事	熊谷 信昭
理事	銭高 一善
理事	伊藤 勲
理事	吉沢 英成
監事	小笹 定典
監事	森 房子

評議員	
田中 郁夫	松下 正幸
池田 太臣	上島 康男
八木 範彦	松田 基
奥田 雅康	銭高 一善
岡 直子	北市 哲朗
金延 重光	熊谷 信昭
林 正規	俵 正市
坪内 良博	塩原 勉
清水 洵	伊藤 勲
松林 靖明	吉沢 英成
香川 豊	明石 巧
津村 智恵子	荒川 壽正
上田 昇司	黒石 誠
吉松 典子	鈴木 健夫
阿部 美加	西岡 良和
谷田 奈々子	野口 流美子
百崎 祥子	松永 有佳里
山本 恵子	

理事	17名
監事	2名
評議員	35名

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

甲南女子学園事務組織図

 は、法人管理運営組織

